

パブリックコメント結果について

1. 案件名 第4期荒尾市地域福祉計画・地域福祉活動計画（素案）
2. 実施期間 令和5年1月10日（火曜）～令和5年2月8日（水曜）
3. 実施結果 1人（12件）※同様の意見は集約の上、1件として計上

※ ご意見等につきましてはとりまとめの便宜上、適宜要約させていただいております。

※ また、他の政策や個別事業等に係るご意見などにつきましては、参考意見としてお伺いさせていただきます。

No	ご意見・ご提案の概要	ご意見に対する市の考え方
1 (全般)	<p>住民の福祉ニーズが多様化し、これまでの公的な福祉サービスだけでは十分な対応をすることが難しくなっており、そのため、地域における多様な生活課題・問題に対して、その生活課題・問題をどう解決したらいいのか、特に少数のケースと思われる場合や、複数の内容が絡み合うものに対して、まるごと家族の相談（子育て・介護・福祉）を聞いてくれる入り口のような場所があると相談しやすいと感じます。</p> <p>また、多様な声を拾うことで、地域の課題を拾い上げ、解決の呼びかけや提案を、広報などを利用してその内容に特化したリーフレットや小冊子、PDFのHP記載などをして、伝えてほしいです。</p>	<p>今後、地域福祉を推進していく中で、複雑・複合化する課題に対して、従来の各分野・各制度の中だけでの支援ではなく、その分野や制度を超えた包括的な相談支援体制の中で対応することの重要性を市としても感じております。本市におきましては、複雑・複合化する課題の解決に向けて、アウトリーチによる総合相談事業を社会福祉協議会が実施しており、専門職が各関係機関、法律専門職や福祉専門職と連携して、伴走型支援に取り組んでおります。今後は令和8年度までに開業予定の「保健・福祉・子育て支援施設（仮称）」を窓口の一つとし、健康、子育て、福祉などに関する様々な相談に対応し、相談者の属性にかかわらず、各制度で定められた相談機能の垣根を超えた支援をワンストップで対応できる体制の構築を目指しております。（P36 記載）</p> <p>リーフレットや小冊子の作成を通じた広報活動についてのご</p>

		意見は、当該施設を整備・運営していく中での参考にさせていただきます。
2 (P2)	<p>地域福祉をめぐる社会動向</p> <p>◆複合化する課題</p> <p>「近年、少子高齢化や核家族化、価値観やライフスタイルの多様化等により、地域住民同士の関係性が希薄になり、これまで地域社会が果たしてきた助け合いの機能の低下が危惧されています。このような中、子育て世代、高齢者、障がいのある人に対する支援だけでは対応しきれない、生活課題の多様化・複雑化（ひとり親家庭を含む生活困窮者の問題、社会的孤立、老老介護、引きこもり、8050（7040）問題、ダブルケア、ヤングケアラー、虐待等）に伴い、制度の狭間の問題が顕在化し、新たなニーズへの対応や課題解決に向けた取り組みが求められています。」</p> <p>これに関して、「若者ケアラー」という、18歳以上の若者で未婚者の支援も加えていただけたらと思います。</p>	<p>当該ページについては、近年の地域福祉を取り巻く社会動向を示すものです。ヤングケアラーや若者ケアラーは、一般的に障がいや病気のある家族、幼いきょうだいなどのケアをはじめ、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもや若者のことを指しますが、ここでは多様化・複雑化する様々な生活課題の一つとしてヤングケアラーを記載しております。本市としても、ヤングケアラーをはじめとした様々な課題の解決のため、関係部署と連携した取り組みの検討を行ってまいります。</p>
3 (P18)	<p>P18【地域活動参加の有無、参加できない・苦勞すること】の地域活動に参加できない理由として、「活動する時間がないこと」が30.8%と高いのですが、その他の回答の「参加するきっかけが得られないこと」20.9%、「身近に団体や活動内容に関する情報がないこと」18.9%、「身近に一緒に参加できる適当な人がいないこと」17.5%の部分に関して、いかに地域活動に</p>	<p>ご指摘のとおり、地域福祉を推進していくためには、住民が地域に関心を持ち、地域のことを知る中で支え合いの意識を高めていく必要があります。今後5年間で、ささえあい活動やいきいきサロンなどを通して、地域住民が交流できる集いの場の促進を図り、住民同士が支え合い、助け合いながら地域の課題解決に取り組める環境の整備に努めてまいります。(P40-41 掲載)</p>

	<p>関心を持ってもらうか、そのモチベーションを高められるか、魅力的で参加しやすい活動のスタイルの提示が大事だと感じました。</p>	
4 (P28)	<p>P28 市の取り組みの地域住民との交流及び体験活動等の学習支援を目的に、「放課後子ども教室」を週2回程度、八幡小学校、有明小学校、桜山小学校で実施に関して、PTA等からの声を聞いて、他の小学校での実施を検討してほしいです。学童に入っていない小規模校の子ども達が帰宅後に徒歩で遊べる範囲にお友達がいなかったため、低学年の子ども達が家庭にこもりがちであることは、親にとっても、心配な要素であると思います。</p>	<p>「放課後子ども教室」は学校の余裕教室を活用して、地域の方々の参画の下、体験活動や交流活動を行うものです。教室の拡充については、活動教室や人員の確保、ニーズ等を踏まえ、検討をしていきます。</p>
5 (P28)	<p>天草市が、ファミリー・サポート・センター事業において、ファミサポの利用料金を、生活保護世帯・住民税非課税世帯・児童扶養手当受給水準の世帯（児童扶養手当受給者、ひとり親家庭等医療費受給者など）・ダブルケア世帯（育児と介護を同時に行っている世帯）・障がい児のいる世帯・多胎児のいる世帯に対して、特別に経済的負担を軽減するため、利用料金を一部変更して対応されています。ぜひ、荒尾市でもそのような支援をお願いしたいです。</p>	<p>荒尾市におけるファミリー・サポート・センター事業では、現状、利用料金の半分以上を市が負担しており、きょうだいで預ける場合は二人目以降の利用料金をさらに半額にするなど、仕事と育児を両立できる環境を目指して支援を行っています。今後も多様な子育て世帯のニーズを踏まえた施策の検討を行ってまいります。</p>

6 (全般)	リーダー育成ではなく、『あったらいいな』という当事者たちの思いを汲み取り、どんな人でも希望したら活動を起こしていけるような伴走型でピアサポート等の会を開催できる支援を意識してほしいです。リーダーに依存する形態は、そのリーダーが都合や不在により支援がなくなる危険性があります。また、そのリーダーに対する期待や責任が重く、なかなか活動としての行動に移せない要因の1つになるかと思います。	複雑・複合化する地域課題を解決するために、ピアサポートを必要とされる方々を含む地域住民、関係機関、各専門職など様々な当事者が、支え手・受けての立場を超えて連携・協働を図ることが求められています。様々な当事者同士が気軽に相談することができ、その当事者全員が支援者にもなることができる「プラットフォーム（協働の場）」の整備に努め、支援者（当事者）一人に負担が発生しないような環境づくりを検討します。（P36 掲載）
7 (全般)	市民活動のサークルを起こす場合、活動をする場合のわかりやすい手引き、ハンドブックがほしいです。各々の内容で担当される行政の部署が異なるので、わかりやすく、活動に集中できるサポートをお願いします。	市民活動の支援については、市民活動サポート助成事業や市民活動補償制度等において各団体の自主性及び特性に応じた活動の活性化や活動団体の自立を支援しております。今後もこれらの事業や制度の周知・啓発を強化し、市民活動が安心して行えるような環境整備に努めてまいります。また、団体の起ち上げに伴う手引き等についてはご意見として今後の事業の参考にさせていただきます。（P44-45 掲載）
8 (全般)	小学生以上の親の悩み事のサポートやそのような場が増えてほしいと感じます。	<p>現在、市教育委員会では県のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに加え、市独自のスクールソーシャルワーカーを配置し、学校や関係機関と連携して、課題を抱える児童生徒・家庭等の相談支援を行っております。</p> <p>さらに、令和8年度までに開業予定の「保健・福祉・子育て支援施設（仮称）」においても、子育て交流機能の一つとして、親子で気軽に立ち寄れる施設を目指しておりますので、利用者同士の交流や活動を通して、子育てに関する悩みや、情報を分かち合える場としての整備も行ってまいります。</p>

9 (全般)	<p>荒尾に家族がいて遠距離で介護をする人への情報や支援を増やすことで、荒尾にお住いの家族が介護を受けやすい仕組みづくりをお願いします。</p>	<p>介護などの相談において、オンラインによる相談に対応した事例もあります。いただいたご意見を参考に、今後もリモート相談など相談業務の強化やIT化を検討してまいります。</p>
10 (全般)	<p>死産などに関する悩みを持つ方へのメンタルサポートの支援をお願いします。</p>	<p>頂いたご意見を参考に、妊娠から子育てに関するまで包括的な相談支援体制の整備に努めてまいります。</p>
11 (全般)	<p>引っ越ししてきた方の地域に溶け込めるような支援（特に子どもがいない場合に繋がりにくさがあるようです。）をお願いします。子育てや介護をしていない方だからこそそのボランティア参加が可能だったり、これから荒尾で子育てや介護をされる際の繋がりができて安心だと思います。</p>	<p>頂いたご意見を参考に、世代に関係なく誰もが気軽に集い、交流し、地域活動を実践していく場や機会づくりを促進させ、引っ越ししてきた方も地域に溶け込めるような環境づくりに努めてまいります。</p>
12 (全般)	<p>ケアラー支援の充実を希望します。また、ケアラーズカフェ等の開催もお願いしたいです。</p> <p>子どもと高齢者、家族という視点からのダブルケアに関する啓蒙や支援をお願いしたいです。ひとり親家庭でのダブルケアの方もいます。ダブルケアが原因でヤングケアラーにお子さんになるケースもあります。これから重要な課題だと思われま</p> <p>す。</p> <p>介護において、介護する家族が病気であったり、子育て中の場合であったり、逆に、子育てにおいて、同居家族が認知症などで子どもを任せられないケースの家族もいます。ダブルケアの場合、制度の狭間でこぼれおちてしまう部分があるように感</p>	<p>ご指摘のとおり、地域福祉を推進していくうえで、ヤングケアラーやダブルケア等の支援については、重要な課題であると考えております。これらは、当事者に自覚がないなどといった理由から問題が表面化しにくい現状や、表面化してもその根底に複合的な事情があり、制度の狭間で支援に繋がらない現状などがあると想定されます。これらを解決させるには、まずは多くの方にヤングケアラー等について認識していただく必要があると考えております。今後はその周知啓発に努めとともに、専門職を中心とし、関係機関と連携した早期発見、把握に努めたいと思います。また、本計画の重点取組として掲げております「保健・福祉・子育て支援施設（仮称）」の設置及び、多機関が連携するための「プラッ</p>

<p>じます。家族がいるけれど、複数のケアが重なることで家族としての機能を発揮できずに、家族がいるという視点からサービスの利用が難しいケースがあることを知っていただきたいです。</p>	<p>トフォーム（協働の場）」の構築において、様々な悩み事を抱えた方に寄り添った支援ができるように努めてまいります。（P36 掲載）</p>
--	--